



教育目標

豊かな心 たくましい実践

# 亀中だより

新潟市立亀田中学校  
令和2年11月27日  
第7号

生徒会スローガン Next Step ~自分から動ける・貢献する・認める~

## いじめ見逃し0集会 ~いじめ見逃しゼロ キャラバン~

11月20日(金) 亀田中学校体育館



今回のいじめ見逃し0集会は、5限に「いじめ見逃しゼロ キャラバン」による講演会、6限に具体的ないじめが起こり得る場面を考える事を通して、いじめを事前に防ぐには何が大切かを考える活動を行いました。そして、「いじめ見逃しゼロ キャラバン」からは、南魚沼市出身のシンガーソングライターとして活躍されている、TSUNEIさんがお越しくださいました。

今回の集会のテーマは「予防」に焦点を当てて行われました。TSUNEIさんの講演では、ご自身の人生の中での経験から「幽体離脱の術」といういじめの対処法、全力で物事に取り組むことの大切さ、失敗を無駄にしてはいけない精神、時には逃げたっていい、というお話をいただきました。また、生徒自身が自分たちのことについて考える、ということも目的の一つでした。生徒会執行部が主体となって準備を進め、代議員の協力もあり、6限は活発な話し合いが行われました。(生徒会執行部3年 笹川 蒼天)



## 今年度のいじめ見逃し0集会を振り返って

生徒会執行部3年 植松 龍平

今年度の「いじめ見逃し0集会」は、いじめを予防するという事を目的として、夏休みから計画・準備が始まりました。ですが、活動の流れを決めても、この目的にせまる活動内容にすることが出来ず、直前まで準備が難航しました。代議員に協力をしてもらった時も、活動内容をうまく説明することが出来ず、せっかく集まってもらっても時間だけを浪費してしまうこともありました。しかし、最後の一週間を追い込んだことで、当日にはなんとか間に合わせる事ができました。

6限の各学級での活動では、うまくできるか少し心配に感じていました。ですが、執行部と代議員が協力し「ここはもっとこうするといいよ」「説明をもっとわかりやすく」と声をかけ合い、当日を迎えたことで、どのクラスでも活動がスムーズにいき、いじめを予防しようという意識を高めながらワールドカフェの活動を行うことが出来ました。

この「いじめ見逃し0集会」は、これまでの学校行事とは違い、成功させてゴールではありません。いじめの予防のために真剣に話し合ったことをこれからの学校生活に生かしていくことが大切なのです。なので、亀中生一人一人にいじめの予防について関心をもってもらえたことには、大きな意味があると思います。いじめをなくすためには互いに意識し合うことが大切です。一人一人が積極性をもっていじめについて考えた今年度の「いじめ見逃し0集会」。とても良い機会になったのではないかと思います。

## 「いじめ見逃し0集会」を終えて

生徒会担当 柳 大輔

「自分たちの手で創り上げたい」「コロナ禍でも全校で集まって考えたい」「昨年の学びを活かし、今年はいじめの予防を考えたい」この思いで、生徒会執行部が中心となって考えたのが今年の形（5限：全校で講演を聞く、6限：話し合いは各クラスで行う）でした。全校生徒の授業時間を2時間預かる責任は大変大きいものですが、そのために夏休みから動き出せた生徒たちを誇らしく思います。

5限のTSUNEIさんの講演では3つのメッセージをいただきました。

- ①本気でやれば、応援してくれる人が必ずいる！
- ②辛い経験を無駄にしたらもったいない！
- ③逃げることは新しい可能性に会いに行くことかも！？

さすが伝えることを生業とされているTSUNEIさんの話は、心にすっと染み入るものでした。

6限の話し合い活動では、生徒が考えた日常にありそうな場面を題材にしました。いじめの可能性を見つけ、それを防ぐためにどのような言動をとることができるのかを考え、話し合いました。今年らしさとしては各クラスの司会（ほぼ授業者です）を執行委員と三年生代議員で行った点です。司会が自分たちと同じ生徒であるからこそ、授業とは違った生徒目線の意見が出ていました。本音で語るからこそ、明日からの言動に少しでも変化が起きることがあるのだと思います。

現在の亀田中学校はTSUNEIさんに「素晴らしい生徒たちですね」と言っていただけほど、落ち着いた雰囲気で行われています。しかし、その中でも「辛い思いをしている仲間がいるかもしれない」「この言動から、いじめが起きる可能性があるかもしれない」このような思いをもって、一人一人が大切にされる学校になるように生徒会活動は続いていくと信じています。

